



沼津市明治
史料館通信

二〇一〇年七月

通巻102号

■企画展に寄せて

富士・沼津・三島三市博物館共同企画展

「わがまちからの富士山 三市対抗富士自慢」

■シリーズ沼津兵学校とその人材 89

碧血会と沼津兵学校出身者

企画展に寄せて

第14回富士・沼津・三島三市博物館共同企画展

わがまちからの富士山 三市対抗富士自慢

会期

沼津市明治史料館	7月17日	～	9月26日
富士市立博物館	10月9日	～	12月12日
三島市郷土資料館	12月19日	～	2月27日

平成八年、富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会が結成され、富士市立博物館・沼津市歴史民俗史料館・三島市郷土資料館の三館によって、平成九年度から二十一年度までの間、十三本の共同企画展を開催してきた。この間の活動の詳細については、高林晶子氏による「報告」富士・沼津・三島三市博物館共同企画展の歩み、並びに朝鮮通信使四〇〇周年記念展について（静岡県博物館協会『研究紀要』第32号、二〇〇九年）を参照されたい。

平成二十二年度から沼津市歴史民俗史料館に代わって、当館が協議会のメンバーとなり、富士・三島の両館とともに共同企画展に参加することとなった。単なる代打ではなく、沼津市歴史民俗史料館とは違った味が出るのが期待されている。交代であろうし、やるからには「一味違ふぞ」と観覧者のみなさんに感じていただきたいと思っている。また、他の博物館の学芸員と連携して展示をするという、当館ではこれまであまり手がけたことのない事業であり、多少の緊張を感じながら新鮮な気持ちで作業を進めた。

今年度の共同企画展は、三市に共通す

るテーマとして「富士山」をとりあげる。いうまでもなく日本一の名峰である富士山は、三市の市民にとっては馴染みがありすぎるテーマかもしれないが、世界文化遺産登録に向けての動きや昨年末の「富士山の日」（二月二三日）制定などで話題となっているこの時期に、富士山の三市三様の姿を、三館が収蔵する資料・作品を中心に「自慢」しあうというものである。

富士山南麓に位置する富士市からは、

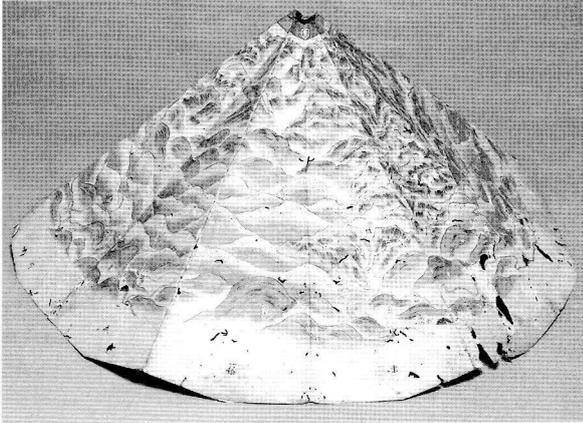
裾野を広げた雄大な富士山を浮世絵や富士山絵図などが出品され、富士山南東に位置する三島市からは、ちょうど宝永噴火口を正面にとらえた作品や写真が出品されている。

愛鷹山を挟んで富士山の南に位置する沼津市からは、歌川広重が五十三次シリーズで枠からはみ出すように描いた原宿からの雄大な富士山や、藤井達吉がそのわずかな在中に好んで描いた名勝千本松原の富士や、日本を表象する風景であり、「最後の浮世絵師」ポール・ジャクレも愛した市南部からの海越しの富士山を描

いた作品・写真などを出品している。また、今号の表紙に掲載した絵はカナイサワコ氏が、本企画展のために描き下ろしたものである。

当館での会期を終えた後は、富士市立博物館、三島市立博物館と巡回するこの企画展。三市三様の富士山の姿もさることながら、「三館三様」となる展示も是非御覧頂きたい。

（木口 亮）



富士山立体図
江戸時代



朝焼けの富士

下田舜堂 (1899-1989)

箱根西坂入口付近から富士山に向って描かれた作品。三島市内が朝霧に包まれている。



千本松原と富士
藤井達吉 昭和31年
(個人蔵)



勇ましい漁師
ポール・ジャクレー
1939年

碧血会と沼津兵学校出身者

アジア太平洋戦争を経験した戦友会の元兵士たちを例に出すまでもなく、戦争という極限下で起居を共にした者同士は、後々までも強い絆を持ち続けたようである。箱館戦争を戦った旧幕臣たちも同様であり、彼らは碧血会という一種の戦友会をつくり、大正期に至るまで親睦を続けた。明治八年（一八七五）戦死者慰霊のため函館に建てられた碧血碑と同様、会の名は、義に殉じた忠臣の血は三年たつと碧と化すという中国の故事に拠るものである。

碧血会の結成時期は不明であるが、明治末から大正期にかけては旧幕臣一般の親睦団体である同方会と連合で春秋年二回の大会を開いていた。その活動の一端は、『同方会の機関誌『同方会誌』』からうかがい知ることができる。そこに記録された会員の名を列挙すれば、以下のようである。榎本武揚、大鳥圭介、安藤太郎、人見寧、西川真三、小花万次、町野五八、本多晋、丸毛利恒、寺沢正明、間宮魁、細谷安太郎、高松凌雲、斎藤徳明、大須芳之助、内田万次郎、蓮沼智三、大沢常正、大沢正業、小林定業、並河一、司馬



戊辰戦争を戦う本多忠直
 (『原六郎翁伝』所収
 「野州安塚戦争之図」より)
 官軍側だった人物の伝記に敵役＝「賊軍」として描かれたものといえる。



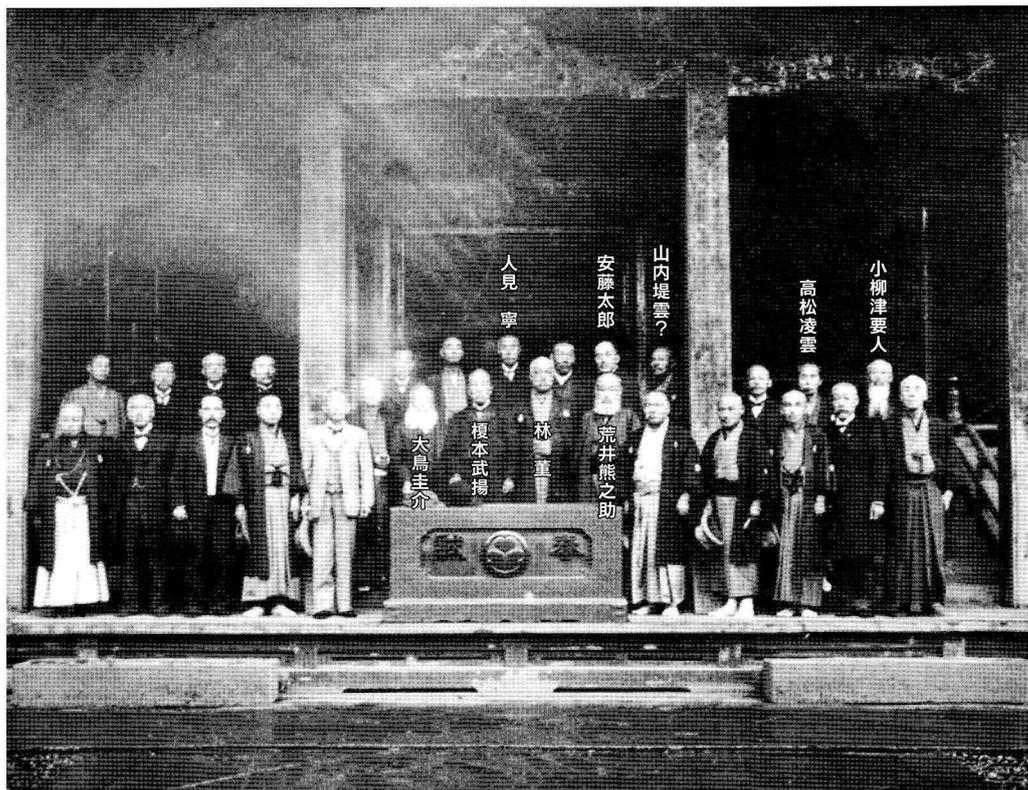
箱館戦争で戦死した塚本明教（沼津兵学校教授塚本明毅の弟）の墓
 沼津市・西光寺
 「明治二年己巳五月十七日箱館戦死」と彫られている。

止郎、山野繁輝、栗原勘次郎、和田惟一、小柳津要人、中島鍋次郎、古屋庚次郎、松平正次、山田昌邦、本山漸、中山讓治。他に現存する記念写真から、荒井郁之助、林董、山内堤雲らも会員だったと推測される。これらの顔ぶれからは、旧幕臣ではない他藩出身の者、箱館まではたどり着けなかった者（銚子沖で遭難した美加保丸乗組員）、戦死者の遺族なども加わっていたことがわかる。

沼津兵学校の教授陣の中には、箱館戦争に参加した後、降伏・謹慎を経て静岡藩に帰参した者がいた。杉浦赤城（清介）・本多忠直（幸七郎）・山口知重（朴郎）・梅沢有久（伝吉）の四名である。残念ながら彼らが碧血会の会員になっていたか否かはわからない。先に列挙した会員のうち、唯一山田昌邦だけが沼津兵学校教授であるが、彼は美加保丸乗組員であり、五稜郭までは行っていない。

碧血会の会長は当然ながら榎本がつとめた。ただし、彼の没後は誰が引き継いだのか、解散時期などについては不明である。

（樋口雄彦）



碧血会の人々
 (人見寧則氏所蔵)

上野東照宮にて。残念ながら全員の氏名はわからないが、顔から判別できた人物については表示した。

戦時中の暮らしを体験しよう

日時 8月4日(水) 10:00~15:00
 対象者 市内の小学生4・5・6年生
 会場 講座室・駐車場
 内容 「すいとん」を作って食べる
 戦時中の話を聞く
 高角砲部隊の弾薬庫跡の見学
 *雨天の場合はビデオ鑑賞
 持ち物 筆記用具、軍手、タオル、お箸、お椀、飲み物
 汚れてもよい服装 (保険料15円)
 申込み 7月23日(金)9:00~電話にて受付 (先着30名)



中学・高校生のための1日学芸員体験講座

日時 8月5日(木) 10:00~15:00
 内容 ① 講義…「博物館」と「学芸員」
 ② 見学…展示室・館内施設の見学
 ③ 実技…博物館資料の取り扱い方
 持ち物 筆記用具、昼食
 動きやすい服装
 申込み 7月23日(金)9:00~電話にて受付 (先着10名)



平和を考える戦争史跡めぐり

日時 中学生：8月6日(金) 8:50~16:00
 親子：8月8日(日) 〃
 内容 沼津市内に残る戦争史跡をマイクロバスで回ります
 持ち物 弁当、飲み物、筆記用具、懐中電灯、タオル、汚れてもよい服装 (保険料15円)
 申込み 7月23日(金)9:00~電話にて受付 (各回先着23名)

第14回 富士・沼津・三島 三市博物館共同企画展関連 催し物のご案内

講演会 8月28日(土) 13:30~ (開場は13時)

「富士山の美術」

講師 飯田 真氏 (静岡県立美術館学芸課長)
 会場 当館2階 講座室

*申込み・聴講料は不要です。
 当日、直接会場へお越しください。

絵画展 9月11日(土)~9月26日(日)

「子どもたちが描いた わがまちからの富士山」

市内の小・中学生から募集した絵画作品を展示します。
 会場 当館4階 展示室

ギャラリートーク 7月24日(土)・8月21日(土)・9月25日(土)

いずれも11:00~

学芸員が展示を見ながら解説します。
 8月21日は三館の学芸員が勢ぞろいします。



7月24日・8月21日
 には
 ふじっぴーも来るよ!

沼津市明治史料館通信

第102号

平成22年7月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
 〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
 TEL055-923-3335
 FAX055-925-3018

印刷
 みどり美術印刷株式会社

編集後記

リニューアル第2号です。諸事情あって今号は白黒になってしまいました。表紙や企画展紹介の記事の資料は是非カラーでお届けしたかったのですが…残念です。ぜひ館に来て、実物をご覧いただければと思います。